

# SDGs 身近な存在に

## 水沢工高機械科3年

# 6人が課題研究開始

## 空き缶再利用 講師迎え学習

**【奥州】** 地元の鋳物業者、認定こども園と結び付きを深めながら国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」を身近で分かりやすく普及させたい、という奥州市の県立水沢工業高校機械科3年生による課題研究「SDGsキーホルダーを作ろう」の活動が始まった。取り組むのは6人の生徒で、31日には開始に当たって同市生活環境課、奥州めぐみネットの関係者の講義を聴いてSDGsについて学び、今後の活動に向けたイメージを膨らませた。

同校では、それぞれの専門での活動となるが、「SDGsを生かした課題研究に取組んでいる。数人グループは6人の生徒が鋳造技術を

生かしてキーホルダーを作る。普及に取り組んでいる同校の若生和江代表、奥州版SDGs作成にも関わった市生活環境課の大内守人係長を講師に招いた。若生代表は「自分が一番伝えたいことは何かを考えることが大事」とし、「こども園にプレゼントを届けよう」というのは素晴らしい取り組みだ」と語った。

大内係長は「SDGsと自分との距離を縮めよう」と呼び掛けた上で、一つの物事にさまざまな目的を持つ

った人たちが関わり合って強い推進力を生み出す「ゴール間のマルチベンネフィット」の考え方がSDGsの特徴の一つと紹介。取り組みを進めていく中で自分たちの興味、知識や技術を生かしているか▽情報発信はできているか▽などを確認していくようアドバイスした。

講義の後、2人の講師の指導でカードゲームや鋳物を使った調理にも挑戦。SDGsや地場産業への理解を深めた。

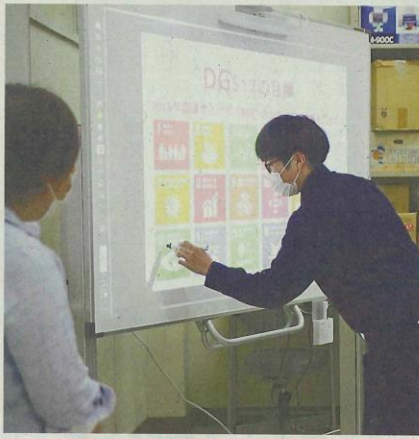
最初の講義を受け、リーダーの菊地駿太さん(17)は「キーホルダーを作るだけでなく、子供たちに授業で教えたい。それが家族にも広まっていったらいい。SDGsをさらに勉強し、身近で分かりやすいものとして普及させたいと思っている」と抱負を語った。

グループの計画によると、夏までデザインを考えて試作を重ねるとともに、認定こども園「稲瀬わかば園」(同市江刺)の協力を得て材料となるアルミ缶を回収。秋から量産し、12月には同園で出前授業と作品提供を行う。制作方法については同市鋳物工業協同組合に協力を依頼しており、鋳物企業を訪問して学ぶ考えだ。

「SDGsキーホルダー」の取り組みの様子は、同校の魅力を発掘して紹介する課題研究「水工魅力化研究」の6人が取材し、ドキュメンタリー動画を作成するという。



SDGsについて学ぶ水沢工高機械科3年生の課題研究「SDGsキーホルダーを作ろう」のメンバー



活動開始に当たり、講師を招いて行われた学習会